

子育て世代の皆さんに聞きました!

自然を共有できる施設を!

#父の仕事を継ぐためUターン

東和地区

岡 畠 さん

私は、進学のため東京へ上京したのち、父の営む造園業を継ぐために妻と子ども2人と周防大島へUターンしました。現在は、子どもが4人に増え、家族6人で暮らしています。

#暮らしやすい環境

周防大島での子育ては、話を共有し、お互いに助け合える同級生が多く、医療費の無料化や保育料の無償化、中高一貫教育など安心して暮らしやすい環境にあると感じています。



#困ったこと

子育てをする中で困ったことは、子どもが病気になるなど緊急時に小児科が無いため島外まで行かなければならないことです。

#今後期待すること

子どもも一緒に利用できる飲食店や周防大島の自然を共有できる施設が増えれば子育て世代は助かり、島も活気づくのではないかと考えます。

今後も、子どもたちがこの島へ帰ってきたいと思えるような取り組みを期待しています。

本当に必要な教育とは?

大島地区

泉 本 さん

#PTA会長として

私の3人の子どもたちは、三蒲小学校に通っており、私はPTA会長を務めています。「学校が良くなり、地域が良くなるためにはどうすれば良いか?」ということを考えてることが多くなりました。

#コミュニティスクールの存在

過去に起こった大島大橋の事故やコロナ対応、今の学校の状況、島内外との比較など考えればきりがありませんが、いま一番必要なのはコミュニケーションだと思います。

山口県では全ての国公立小中高にコミュニティスクールを設置していますが、実際にはその存在が何なのかあまり知られていないのが現状です。それを皆が認知し、利用することができれば、学校とPTAが力を合わせ、子どもたちの心を守り、自分自身や周防大島に対する肯定感を育んでいけると思います。

そして、その子どもたちが、島の活気を生む環境を作っていけると思います。

#本当に必要な教育とは?

制度や時間にしばられるのではなく「子どもたちにとって本当に必要な教育とは何か?」と大人たちが話し合い、確実に形にしていくことで子どもたちを安心させ、笑顔を作り出せると考えています。

福祉課推し施策 **周防大島町 子育てブック**

